
愛しパートナー

カトラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛しパートナー

【Nコード】

N1954L

【作者名】

カトラス

【あらすじ】

長年連れ添った相方に捧げる手紙です。

(前書き)

毒とユーモアが持ち味だと心得てます。

前略。

愛しかったあなた様へ。

突然にこのような形でお別れを告げなければならぬわたくしをお許しくださいませ。

でも、あなた様はすでに新しい方のもとにいかれてしまつて、この置手紙を見られるか定かじゃありませんけど……。

思えば、あなた様と初めてお逢いしたのは、この手紙を書いているときのような、とても暑い日でした。

確か、その日は友人と一緒に飛行機を見物しに飛行場に遊びに行つていたので覚えております。

そして、遠くから滑走路に降り立った機体を何気に見ておりました。その時、わたくしは、あのような大きな飛行機に乗つておられる方がとても羨ましく思い、どのような方が搭乗されていたのかと非常に興味を持ったのでした。乙女心なりに、ああ、自分も自由に飛行機に乗つて、まだ見ぬ異国を見れたらどんなに素敵なんだろうと思つたものです。ですから、タラップから降り立つ方を注視しておりました。降り立った方は、当時としては珍しいサングラスをおかけになつて、スラっとした背丈にともお似合いになつておられました。わたくしはそのお姿を見て、少し怖そうな感じはしたもののなんて素敵なお方なのかしらと胸に響くものを感じたものです。そう、それがあなた様だつたわけなのでございます。

そんな、あなた様のお姿を初めて見てから、ほどなくした頃にわたくしは再度あなた様のお姿を拝見する機会が訪れたのです。それは、あなた様がジープと呼ばれてる屋根無しの車を巧みに操りなが

ら、見ず知らずの子供達にお菓子を車中から配ってるお姿でした。わたくしは、なんてお優しい方なんだと尊敬の眼差しであなた様を見ておりました。すると、なんてことでしょうか、その視線があなた様に届いてしまい、わたくしがあなた様の視界に入ることになってしまったじゃないですか。わたくしは初心なものですから、頬の高揚と同時に思わず目を反らしてしまいました。すると、あなた様は、わたくしの隣に車を横ずけされますと、軽くウインクしながら「乗るかい？」とお言葉をかけてくださいました。

そのお言葉に躊躇してるわたくしの事など、お構いなしに、あなた様は手をとると力強く助手席に乗せてくださいましたね。そして、ドライブに連れて行ってくださいました。車中でのあなた様は、とても自信に満ち溢れておりまして、様々な興味深い話をしてくださいましたのを覚えております。それから、帰りぎわに「悪いようにしないから、俺についてこい」と、わたくしの心を鷲掴みにするような事を言われたのです。そして……。それからのことは恥ずかしくてとても書けませんけど、とにかく強い絆で結ばれたのでございます。その後、心身ともに結びついたわたくしたちは、一緒に生活を共にするようになりました。一緒に暮らすようになってから、あなた様の器の大きさに驚かされたものです。また、とても正義感のお強くお優しい心の方だと、あなた様の言動を隣で見ていて強く思い惹かれたものです。例えば、あなた様は近所のものたちが怖くて何も言えなく傍若無人に振舞っていたものに対して、皆を代表して注意されましたよね。結局、そのものには、あなた様の言葉が届かなかったのか、より乱暴な態度をとったので、あなた様は鉄拳制裁されたわけですけど……。その事は地域の人達の聞くところとなり、あなた様は地域の雄とられました。わたくしは、そんな、あなた様がとても誇らしく思ったものです。そして、あなた様は時折現れる、そんな輩を成敗しては、どんどんと地域で頭角を現していかれまして。

「地域の平和は俺が守る」と警察の代わりになるようなことを言っ

ておられたあなた様をわたくし以外の地域の住人達も誇りにしたものです。

しかし、そんな非の打ち所がないと思っていたあなた様なのですけど、長く付き合ってるうちに嫌なところも目につくようになってきたのであります。一つは金遣いが荒いところでした。とにかく派手好きな、あなた様は欲しいものがあると後先を考えずに買われてしまい残るのは借金ばかりです。そして借金が膨らむと「お前だけが頼りなんだ」とわたくしに金の無心をよくされました。それでもわたくしは嫌われなくなかったので、あなた様のために必死に働き借金の穴埋めに奔走したものです。それと、あなた様の喧嘩早いところも好きではありませんでした。少しでも、あなた様が気に食わないと思うと、難癖をつけその方を手段を選ばずに従わせようとなりましたよね。そして、極めつけの嫌な事が、組合を作ると近所の方から金を集めだしたことです。拒むものに対しては「地域の平和のため」と言ったり。組合費を運用して「必ず儲けさせてやる」と強引に金を集めたことなんです。結局、集めた金は自分の為にしか使わなかったため、皆の不評を買うことになりました。そう、皆さん損をされたのです。でも、皆さんはあなた様の事が怖いので、面と向かって文句を言う方はおられなかったのですが、妻であるわたくしには容赦がなく、あなた様の代わりに尻拭いをさせてもらったのです。

それでも、あなた様のことが好きだったので我慢したし、文句一つも言わずにやってきたのです。しかし、こんな甲斐甲斐しく尽くしてきたわたくしをあなた様は裏切るようなことをされましたよね。胸に聞いたら分かると思いますけど、それは、あなた様の浮気でございます。最初は遊びだろうと見て見ぬふりをしてましたけど、わたくしのことを避けるようになっていかれて、そのうちに金の話しかされなくなってしまうましたよね。それでも、いつかまた戻ってきてくれると信じていたわたくしが馬鹿でございました。それは、浮気相手のチャイナドレスを着た女に「あいつは、もう役立たず」

だと言っていたのを偶然に街で見聞きしてしまったのです。これで、わたくしの決心はつきましたので、この置手紙を残す運びとなったのです。でも、わたくしも一人では生きていけない女ですので、これからはスパイスの香りがきついマハラジャさんという方と運命を共にしたいと思います。

では、お元気でさようなら。

2015年 8月15日 日の本撫子より。 リーマンライスさんへ。了。

(後書き)

どうも、お読みになっていただきありがとうございます。
如何でしたでしょうかね。

このお話は、戦後の日本とアメリカの関係を皮肉ったものにして
おります。

途中でネタばれしても、楽しめるつくりにしたつもりです。

無論、ネタばれしないことにこしたことはないのですけどね(ネ
タばれしなかつたら二度目が楽しめますし。笑)

ですから、作者としては大変この作品には自信をもっておりまし
て、シヨートシヨートコンテストに出しても恥ずかしくない結果が
得られるものだと思っております。

まあ、今回は大祭には参加しないつもりでしたが、主催者様(お
世話になってます)からの何度かお誘いいただいたのと、前回の5
分企画で、つい上から目線の好き勝手な感想(今回もですが)を書
いたものですから、作者および読んだ方から、「なんなんだ、あい
つは偉そうに! お前は言う方からにはたいしたもの書けるのか?」
的なことを思われているのじゃないかと考えたために、今回、作品
投稿した次第でございます。

でわ、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1954/>

愛しパートナー

2010年10月8日15時22分発行